

老人ホーム選び 体験記

市川汗苦郎^{かんくろう}

年は取りたくない、などと言っても人はみな平等に毎年1つ齢を重ねていく。

身近な90才になる叔母を老人ホームに入居させるために奔走したのでここに記すことにした。

尚、ここでは自立できる方で施設に入居するという方は除き、要介護状態の方のみについて記すこと、初めにお断り申し上げます。

ざっと老人ホームの種類を説明すると、公共の特別養護老人ホーム(以下特養)・介護老人保健施設(老健)、民間の介護付き有料老人ホーム(以下ホーム)、などけっこう種類がある。終の棲家となれる施設は特養とホームの2つに絞られるが、特養は要介護3以上でないと入居が出来ない。ということで特養とホームについて簡単に説明しよう。

特養はかつて長い間入居待ちというイメージであったものの今は以前に比べれば入りやすくなった模様。というのは入居条件が要介護1から要介護3に引き上げられ、それに伴い高齢者の割合が増したため入れ替わりの激しい施設となったようだ。つまりお亡くなりになる方が増えたということ。ちなみに要介護度は1から5まであり、数字が増えるほど要介護度、つまり介護の度合いが増す。

費用も地域や所得、大部屋か否かにもよるが月10万円程度から月20万円程度のところが多いようだ。また、病院の大部屋のようにカーテンで仕切っただけの簡易個室は費用が安く抑えられるメリットがある。痴ほうが進んだ方は概ねこちらであろうか。明日は我が身だと思いと恐ろしい。

ホームの方は金額に差がありすぎて、どうぞご自由にと言いたいくらいだ。聖路加レジデンスの入居金は2億円超とか。そこまでいかないまでも、入居一時金が必要なところから不要なところまでである。傾向としては一時金不要の施設は月々の費用が高く、都内周辺ではざっと月々20万円ほどからといったところか。千差万別である。

概要はざっと以上なので、私の体験談をお話する。

私には90になる叔母と、95になるその連れ合いがいた。もちろん子供はいない。2人にはヘルパーさんとケアマネージャー(以下ケアマネ)さんがついていてくれた。ケアマネさんから突然昨年12月に叔父は入院し余命2か月、叔母は痴呆が始まっており1人での生活は難しいので、早急に施設に入れて欲しいと連絡が入った。

叔母の甥、つまり私の従兄弟ががもう一人いるため一応連絡してみたところ、取り敢えず叔父が亡くなってから考えよう。後は施設に入れるとしてその従兄弟からはもう84才と高齢のため私に任せると言われてしまった。

まず初めにお金と通帳の管理。つまり預かった。もちろん従兄弟とケアマネさんには連絡済み。すると叔母は預けたことを忘れ盗まれたと思い110番通報。口座は凍結されてしまい、叔母を伴って銀行へ行く羽目に。最近の銀行は予約制で、これまた1週間くらい待つことになる。目の前で新聞の定期購読を解約したばかりのはずが、次に会うと1年間契約している。固定資産税はいつまで納税したのかわからない。テレビドラマで見た光景がまさにわが身に降りかかり、それから私の血圧は急上昇で150は当たり前、170くらいまで上がることもあり、妻が私の体を心配して叔母さんに係るのをやめて！と言ったりする。

今年に入り施設に目星をつけ、料金がざっと月々20万円ほどとお手頃なところ、そこより月5万円ほど高い施設と2か所を訪問。これまでも義父が7年ほど入居していた施設や後で記したがもう一人の叔母のいた施設などと自分なりに比べてみる。やはり雰囲気、廊下の広さや明るさ、担当者の印象等何となく違うなあと感じるのは気のせいかな。やはり料金と比例するのかなと思う。

今年2月上旬に叔父が逝去。相続の手伝いも加わり、印鑑証明のカードがない、通帳の印鑑がない、と叔母に足を引っ張られつつも区役所での手続きを終える。問題は水道やガス電気、電話の名義変更で、本人が電話口に出ないとできない。そのため叔母の家で数時間過ごすのも苦痛であった。手続きの最後は決まって書類を郵送します。と言われることが多いのだが、紛失してしまうようで叔母の家で一度も見たためしがない。

これではいけない！と、どうせ自宅を売却してそのお金で施設に入れるのだから住所を私の会社に移してしまえ。自分の親ではないのでいちいち叔母と従兄弟に連絡するのも手間がかかる。そしてまた区役所で転居の手続き。その後銀行で叔父の口座解約をしたついでに同じ店に口座のある叔母の住所変更、銀行届出印も紛失したためその手続きもいっぺんに済んでしまったのが良かった。その足で郵便局での郵便物の転送手続きも終え、思惑通り郵便物が手元に届くようになりやっと自分のペースで作業できるようになる。ほっとしたのもつかの間、毎日のように料金未納の督促などが来て、コンビニ通いの日々。これがまたQUOカードが使えないって皆さんご存じでしたか？

ちなみに以前この叔母の姉を、80を優に超え一人暮らしも何なので、ということで中央区佃にある施設に入居させたことがある。ここでは自立できる方は自立棟、要介護の方は介護棟と別れていたため初めは自立棟に入居、だがしばらくすると年齢とともに体は衰え今度は介護棟へ移ることになる。しかし介護棟は空いていないとか、階を移動するだけでも住民票を移せということで銀行、役所、年金等の住所変更手続きが家族ではないが故とても大変であった。本人がしっかりしていて車で移動できたのが幸いであったものの、寝たきりや痴呆が始まっていたらと思うと恐ろしい。

叔母の家を売却して費用をねん出するとして、どの程度のレベルの施設を選んだものかと途方に暮れる私。するとケアマネさんからは現在90才なので10年生きるものと仮定してのホーム選び。そしてまた、終の棲家とは考えずに将来的に特養への転居も考慮してみてください、といったアドバイスをいただく。

何しろ国民年金とわずかの蓄え、それに自宅売却によるキャッシュだけなので延々と生き続けたらどないでしょ!?, と思っていたので有難いお言葉。それであればと上等な施設を選択し、叔母を下見のため案内する。有難いことに4階南向き角部屋、窓の外には木々が見える景色など気に入ってもらえた。また、この叔母の既に故人となった姉のいた施設と同じグループが経営していると説明したことも好印象だったようだ。

次の難題は叔母が居住中のゴミ屋敷と化した66平米のマンションを整理すること。生憎この施設、「ゴミ出しは当日の朝」というルールがあり、朝来ないとゴミ出しが出来ない。しかもエレベーターまでおよそ4~50M、そこからゴミ捨て場までまた4~50Mと結構歩く。2日ほど通って頑張ってみたもののやる気が失せた。

尚、不動産売却時、本人に痴呆があっても誕生日と自宅住所が言えれば意思を確認できたことになるようだ。幸いなことにこの病、昔の事はよく覚えているのでまあ何とかかなりそうである。

本題に戻り入居に際して用意するものを考えてみよう。大きな家具などは撤去が大変。何しろ死去後数日で片づけを終えないとその間の入居費用が生じたままとなる。ということで遺族が自分たちで動かせる、簡単に持てるもの以外持ち込みは注意したほうが良い。私は3段のカラーボックスを2つ、そこ



介護施設全景 HPより



家具の配置



梨畑と建屋



梨畑満開



ひさご亭



ひさご亭の餃子

に渡す板、机、椅子2脚、パイプハンガーのみ。あとはTV、衣服、本人の身の回りにあると落ち着く調度品や飾り、携帯電話など。そして健康保険証や介護保険証などの類。衣類は基本的に水洗いできるもの。気をつけないとウール素材なども自動的に水洗いされてしまう。持ち物、特に衣類には予め名前を書くことを忘れずに。

身元保証人は入院時などに呼び出されることがある。今回、都内は家賃が高いため無理、ということで大田区在住の私は川崎方面を考えていた。だが親戚などの希望もあり東西線、都営新宿線で行ける施設、などの理由で市川のはずれ、武蔵野線沿線の施設となった。何度も入院するようなことがあれば先にも述べた通り特養への転居も視野に入れている。というのも自宅から35キロも離れた施設まで駆けつけるのはさすがにきついからだ。

費用面では月額利用料(施設利用料・食費・光熱費など)、介護保険自己負担分と、別途医療費や薬代、お花見などのレジャー費用、オムツ、本人がリクエストするおやつ代などがかかるとは思われる。叔母の場合はおむつ代が月1万円ほどかかるのが見込み違いであった。

あとは周囲の環境とか土地勘があるかないかも大切。この施設の隣には梨畑がある。私の場合自宅からは遠いものの通っていた高校(Tel 33●-26●1 散々苦労する二浪やいという覚えやすい電話番号)の近くで友達や親戚もたくさんいる。またB級グルメではあるが、ひさご亭という餃子の名店が近くにあるのも私にはささやかな楽しみである。ここの餃子はげんこつのような大きさ。テイクアウト用のカウンターに置かれていた餃子を見て、あれは肉まん?と尋ねていたお客がいた。中の餡はニンニクがたっぷり甘い。それを揚げてあるという珍しい逸品である。

これから不動産の売却、介護認定が上がると自己負担も増える、などまだまだ問題山積だが取り敢えず連休を利用して今までの経緯を備忘録として記してみた。参考になれば幸いである。